

# 世界の農林水産

Winter  
2014

World's Agriculture, Forestry And Fisheries  
No. 837

Report 1

森林の社会経済的利益を強化する

—FAO「世界森林白書」2014年報告

Report 2

OECD-FAO

農業アウトルック 2014

特集

食料安全保障と  
栄養の改善を促進する  
環境を強化するために

—FAO「世界の食料不安の現状」2014年報告



JAICAF ジャイカフ

# Zero Hunger Network Japan

ゼロ・ハンガー・ネットワーク・ジャパン

No.15

ゼロ・ハンガー・ネットワーク・ジャパンは、飢餓と栄養不良をなくすための国内連帯です。

## カンボジアにおける 安全な食の安定供給を目指して ——メンバー団体の取り組み⑩

ゼロ・ハンガー・ネットワーク・ジャパンには、現在30を超える団体・組織が参加しています（2014年11月現在）。今回はメンバーの一員である（特活）環境修復保全機構に、カンボジアでの取り組みを紹介いただきます。

### 安定した安全な食の供給へのニーズ

国際食糧政策研究所（IFPRI）による2006年度の「世界の飢餓指標」において、カンボジアは世界で最も飢餓で苦しむ12カ国のひとつであり、2014年度の指標においても依然として飢餓レベルは「深刻」と認知されています。また2010年カンボジア人口保険調査によると、5歳以下の子どもの約40%は慢性的に栄養不足であり、28%は

過少体重、10.9%は深刻な栄養不足とされています。

2013年、カンボジアでは人口の約64%が農業に従事しており、GDPの34%が農業分野によって占められています。社会・経済的にも農業がカンボジアの基幹産業であるうえ、農業分野の発展が貧困・飢餓の問題を改善し、カンボジアの持続可能な発展への重要な鍵と考えられます。同国では内戦終結後の1999年以降、食料供給量の改善のために、農業の生産性を高めようと化学肥料や農薬の使用量が増大してきました。

### 事業対象地の抱える課題

当機構の事業対象地であるコンポンチャム州においては、2000年代の10年間で急速に化学肥料や農薬の施用量が増大して単位面積当たりの農業生産量は増大してきました。しかし、同時に多くの現地農家はそれらの使用方法に関する適切な知識を持たないために、過剰に施肥をして土壌劣化や池沼でプランクトンの異常発生を伴う富栄養化を引き起こしたり、適正に農薬の希釈や散布を行わないために現地農家の健康被害が頻発しています。

事業対象地であるサムロングコミュニティには、2013年の時点で8,447名



三原 真智人  
三輪 幸司  
藤平 純  
特定非営利活動法人 環境修復保全機構

が生活を営んでおり、そのほとんどが農業に従事しています。2011年に実施したベースライン調査の結果、事業対象者である450農家の98%以上が化学肥料と化学農薬を使用していることがわかりました。しかし、同時に健康被害への懸念や経済的な理由から、多くの現地農家が化学肥料および化学農薬の使用量を40%以上削減することを希望していることも明らかとなりました。

### 持続可能な農業生産環境の構築を目指した事業内容とこれまでの成果

本事業は、持続可能な農業生産環境の構築を目指して、地域における安定した安全な食の供給に草の根レベルで取り組んでいます。特に現地農家が自ら持続的に安全な農産物を生産できる環境を整え、自立して農業をさらに発展させることができるように、人材育成に重点を置いて地域に適した知識・技術を提供しています。例えば、食農環境教育や適切な農業技術を、サムロングコミュニティの現地農家と小学校の生徒と教員を対象に提供しています。

持続的な農業生産環境の基礎作りとして、これまでに多くの資源循環型農業技術研修を開催し、環境への負荷を軽減しつつ、地域の環境に合わせた農業が可能となるように、生物起源である堆肥やペレット堆肥、液肥など様々な農業資材の作成技術を提供しています。ペレット堆肥は粉状の堆肥に比べて農地からの肥料成分の無効流出を抑制できるために、降雨強度の強いスコールが頻発する地域ではとても有用であると考えられ、2012年度にはコミュニティ内にペレット堆肥加工センターを設置しました。今日、多く農家

がペレット堆肥を自ら作成し、圃場で施用しています。

また、多くの現地農家が下痢や赤痢を被った原因のひとつとして、発酵が不十分な未成熟な牛糞堆肥を圃場に施肥したことが挙げられました。そこで、発酵段階の牛糞等に含まれており人体に影響を与える大腸菌 (*E. Coli*) に関する知識の向上を目指し、本団体研究センターの学術研究員を派遣して、堆肥づくりにおける大腸菌の殺菌方法等について指導しました。このように地域において安定した安全な食の供給を目指して、本団体の研究部門と連携しつつ研修を提供し、普及効果を上げています。

### マーケティングや市場の拡大を目指した事業の展開

さらなる持続可能な農業の知識・技術を地域に根付かせて、地域における安定した安全な食の供給を進めていくには、経済的動機付けが必要であると考えられます。そこで現在は、現地農家が生産した低化学肥料・低農薬農産物の販売に向けて、販路の拡大に努めています。これまでに現地農家を中心に販売所の運営委員を結成し、販売実績や消費者のニーズを共有するとともに、有機農産物の生産を目指した土づくりから出荷までのプロセスを学ぶ研修旅行をタイや日本で実施してきました。さらに日系企業から野菜種子の提供を受けて試験栽培の取り組みを実施し、現在は農産物販売に向けての協議を詰めるまでに至っています。2013年度末には郡農業局の敷地内に低化学肥料・低農薬農産物販売所を設置し、2014年8月から販売を開始しました。



本団体研究センターの学術研究員による大腸菌の説明。

### 今後の課題

今後、さらに持続可能な農業生産環境を整えて、更なる安全な食の供給を継続していくためにも、現地農家が生産した低化学肥料・低農薬農産物のマーケティングや市場の拡大が課題となっています。今後は、農産物の多様性と販売所の広報を進めるとともに、顧客や販路を拡大し、低化学肥料・低農薬農産物の生産を促していきたいと考えています。

これからもカンボジア・コンポンチャム州における安定した安全な食の供給を目指して、特定非営利活動法人環境修復保全機構のチャレンジは続きます。

### ゼロ・ハンガー・ネットワーク・ジャパンとは

世界の飢餓と栄養不良をなくすための日本国内のアライアンス。2003年に設立された国際的なアライアンスと、これに続く各国でのナショナルアライアンスの設立が背景にある。

ご意見・お問い合わせ先：ゼロ・ハンガー・ネットワーク・ジャパン事務局 (FAO日本事務所内)  
E-mail : [info@zerohunger-jp.org](mailto:info@zerohunger-jp.org)  
ウェブサイト : <http://zerohunger-jp.org>

### 特定非営利活動法人 環境修復保全機構

タイとカンボジアを中心に、アジア諸国における「農業的・都市的開発と自然環境との調和」を目指した環境修復保全に取り組む。また、環境教育啓蒙の活動を通して、現地の人々が自然資源を持続的に利用していることを目的とした活動を行っている。

ウェブサイト : [www.erecon.jp](http://www.erecon.jp)